

2018年3月期 第3四半期 業績概要

橋本 裕一
アンリツ株式会社
代表取締役社長 グループCEO

2018年1月31日



東証第1部：6754
<https://www.anritsu.com>

Anritsu
envision : ensure

(ノート部記載なし)

注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

(ノート部記載なし)

目次

I. 事業概要

II. 2018年3月期第3四半期 連結決算概要

III. 2018年3月期 通期業績予想（連結）

IV. 2018年の年頭にあたって

-5G/IoTで新たな時代を切り拓く-

Appendix. 5G最新動向とテストソリューション

（ノート部記載なし）

I. 事業概要

T&M事業
開発・製造・建設・保守用



- ▶ モバイル市場 : LTE, 3G
- ▶ ネットワーク・インフラ市場 : 有線・無線NW
- ▶ エレクトロニクス市場 : 電子部品、無線設備

PQA事業

- ▶ 食の安全・安心
- ▶ X線異物検出機
- ▶ 重量選別機



その他

- ▶ IPネットワーク機器
- ▶ 光デバイス



(セグメント別売上比率) 2017年3月期 実績(連結) : 876億円

| | | | | |
|--------------------|--------------------|-----------------|----------------|----------------|
| T&M 68% | | | PQA 22% | その他 10% |
| モバイル 45% | ネットワーク・インフラ 35% | エレクトロニクス 20% | | |

(T&M事業 地域別売上比率)

| | | | |
|-----------|-------------------|-----------|-------------|
| 日本 18% | アジア、パシフィック 37% | 米州 27% | EMEA 18% |
|-----------|-------------------|-----------|-------------|

T&M: Test & Measurement PQA : Products Quality Assurance

(ノート部記載なし)

II - 1. 連結決算概要 - 業績サマリー

➡ 増益基調を維持

(単位：億円)

| 国際会計基準(IFRS) | 前第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績 | 当第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績 | 前年同期比 増減額 | 前年同期比 増減率(%) |
|--------------|-------------------------------|-------------------------------|--------------|-----------------|
| 受注高 | 636 | 642 | 6 | 1% |
| 売上高 | 623 | 623 | 0 | △0% |
| 営業利益 | 17 | 27 | 10 | 60% |
| 税引前利益 | 12 | 26 | 14 | 117% |
| 当期利益 | 7 | 15 | 8 | 107% |
| 当期包括利益 | 9 | 30 | 21 | 252% |

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

グループ全体の受注高は前年同期比1%増の642億円、売上高は前年同期並みの623億円となりました。営業利益は前年同期比60%増の27億円となりました。

当期利益は15億円、当期包括利益は30億円となりました。

II - 2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

➡ T&Mは営業利益前年並みに回復

➡ PQAは増収・増益を継続

(単位：億円)

| 国際会計基準(IFRS) | | 前第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績 | 当第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績 | 前年同期比 増減額 | 前年同期比 増減率(%) |
|-----------------|-----------|-------------------------------|-------------------------------|--------------|-----------------|
| T&M | 売上高 | 426 | 401 | △ 25 | △ 6% |
| | 営業利益 | 7 | 7 | 0 | △ 8% |
| | (調整後営業利益) | (10) | (10) * | (0) | (△ 6%) |
| PQA | 売上高 | 139 | 161 | 22 | 16% |
| | 営業利益 | 6 | 13 | 7 | 112% |
| その他 (含：内部消去) | 売上高 | 58 | 60 | 2 | 5% |
| | 営業利益 | 3 | 6 | 3 | 121% |
| 合計 | 売上高 | 623 | 623 | 0 | △ 0% |
| | 営業利益 | 17 | 27 | 10 | 60% |
| | (調整後営業利益) | (20) | (30) | (10) | (52%) |

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

*T&M調整後営業利益は、米国でのリストラ費用3億円を控除した数値です。

T&M: Test & Measurement PQA: Products Quality Assurance

Anritsu envision:ensure

6

Financial Results FY2017Q3
Copyright© ANRITSU CORPORATION

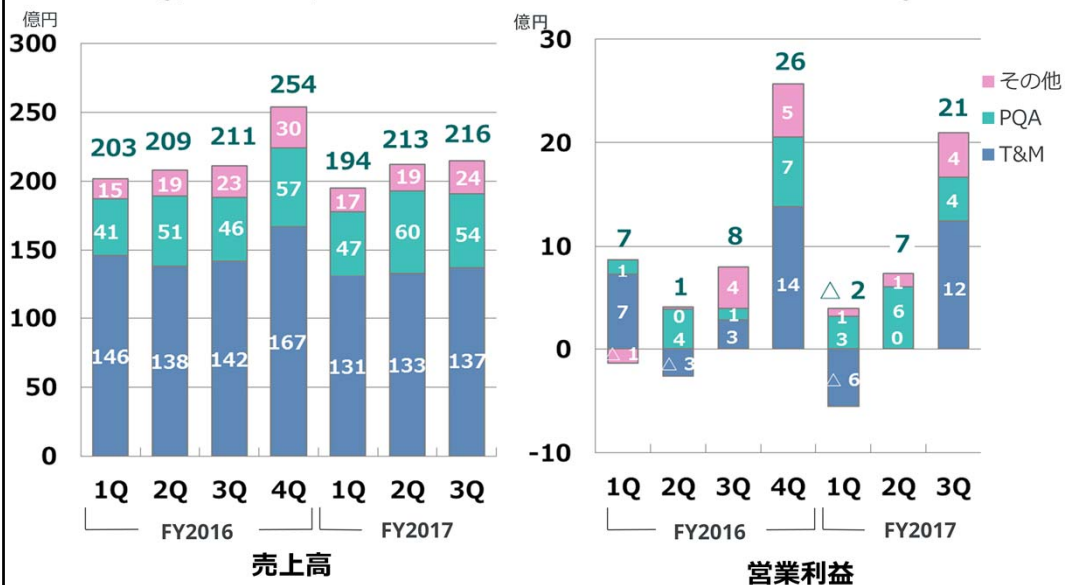
T&M事業は減収も、営業利益は前年並みを確保し、7億円(営業利益率:1.7%)となりました。

PQA事業は増収増益となり、営業利益は13億円(営業利益率:8.3%)となりました。

*調整後営業利益:営業利益から一過性の性格を持つ損益項目を排除した恒常的な事業の業績を測る当社独自の利益指標。PQA,その他は調整項目なし。

Ⅱ - 3. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

▶ 3Q(10-12月)営業利益率：連結10%, T&M 9%, PQA 8%



第3四半期の連結及び各事業セグメントの営業利益、営業利益率は下記のとおりです。

- 連結 21億円(営業利益率:9.7%)
- T&M 12億円(営業利益率:9.0%)
- PQA 4億円(営業利益率:7.9%)

II - 4. 事業別営業概況

| セグメント | | 2018年3月期第3四半期（4月-12月）の状況 | |
|--|-----------------------|--------------------------|--|
| <p>➡ T&M：スマホ関連市場の投資抑制は更に続く</p> | | | |
| モバイル | LTE-Advanced | LTE-Advanced Proへの投資にシフト | |
| | 5G, IoT, Connectivity | 5G商用化に向けた開発案件が具体化 | |
| NW | 光デジタル関連への設備投資は堅調 | | |
| アジア | スマホ製造市場全体の成長鈍化で投資抑制継続 | | |
| 米州 | 北米オペレータの基地局関連投資が縮小 | | |
| <p>➡ PQA：国内・海外とも食品メーカーの投資意欲が旺盛に推移</p> | | | |

T&M: Test & Measurement

NW: Network Infrastructure

PQA: Products Quality Assurance

Anritsu envision: ensure

8

Financial Results FY2017Q3
Copyright© ANRITSU CORPORATION

T&M事業は、ワイヤレス計測市場で、顧客の投資姿勢に一段と厳しさがみられます。

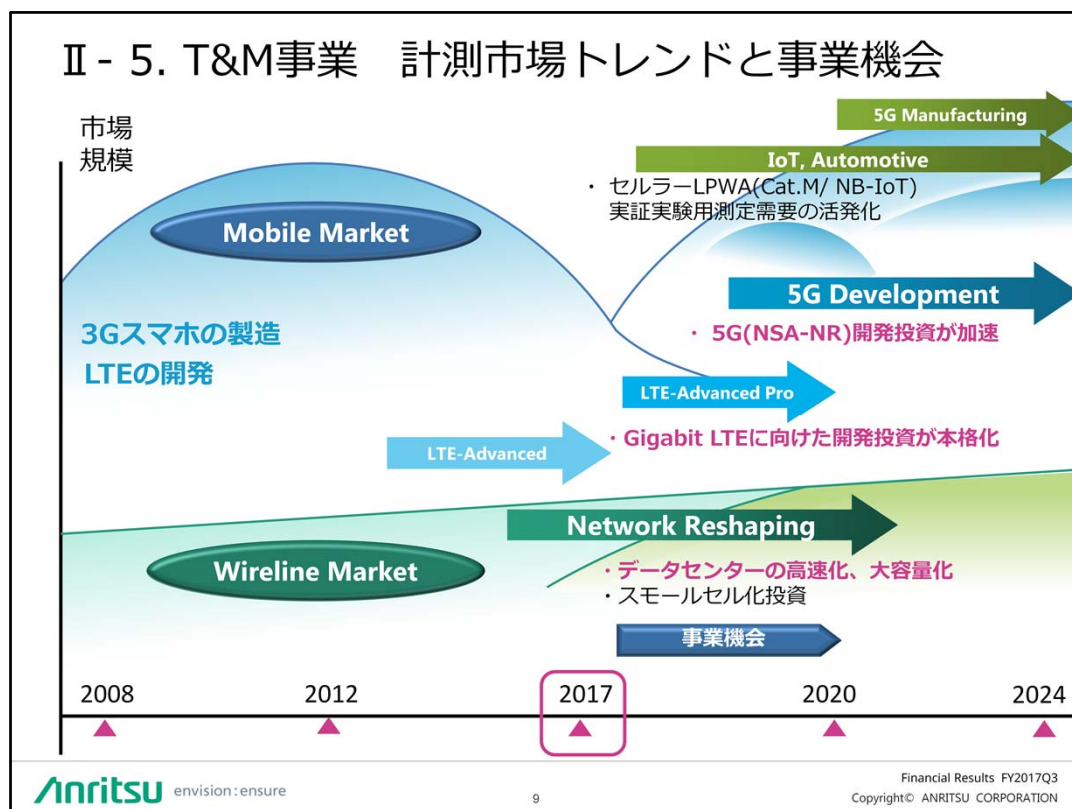
LTE関連のR&D市場では、LTE-AdvancedからLTE-Advanced Pro (Gigabit LTE) へ投資の軸が移行しつつあり、日本ではCA (Carrier Aggregation) の高度化、米国ではLAA (Licensed-Assisted Access using LTE) のR&D用測定器の需要が増加しています。

また、2017年12月に3GPPで5G NSA-NRの標準仕様の初版策定が完了し、各国通信キャリアの5G商用化の実現に向け、チップセットベンダーの開発スケジュールが具体化してきました。

データセンター関連の高速化投資は活発化しており、光モジュール開発・製造用の計測器の需要が堅調に推移しています。

一方で、基地局建設保守市場では、オペレータの設備投資が減少しています。

PQA事業は、国内・海外とも食品メーカーの投資意欲が旺盛で、X線検査機の需要が、全ての地域で堅調に伸びています。



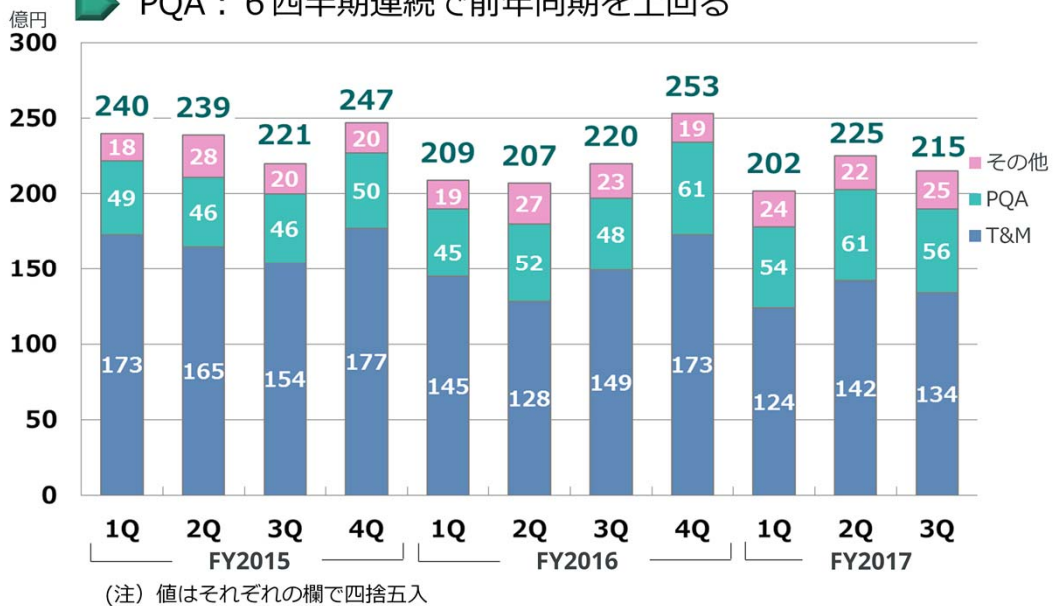
営業概況のとおり、T&M事業の事業環境は、スマートフォン関連市場の投資抑制が、継続しています。

一方で、3GPPの5G標準化前倒しで、各国キャリアの2019年の商用化に向けた動きが具体化しています。3GPPの5Gの標準化は、NSA-NR用とSA-NR用の2段階となっており、2つの異なるロードマップによる需要サイクルが予想されます。また、LTE-Advancedの拡張規格であるLTE-Advanced Proへの投資およびサービスも始まっています。LTE-Advanced Pro は3GPPの「リリース13」以降で規定され、2020年以降も、5Gとの併用が見込まれます。「Network Reshaping」関連市場は、データセンターの高速化、大容量化実現のための光モジュール評価用ソリューションの需要が堅調です。100Gbpsの光モジュール製造用測定需要と、さらなる高速化の実現に向けた400Gbpsの光モジュール開発用測定需要が堅調です。

II - 6. 受注高推移

➡ T&M：上期水準並みで推移

➡ PQA：6 四半期連続で前年同期を上回る



Anritsu envision:ensure

10

Financial Results FY2017Q3
Copyright © ANRITSU CORPORATION

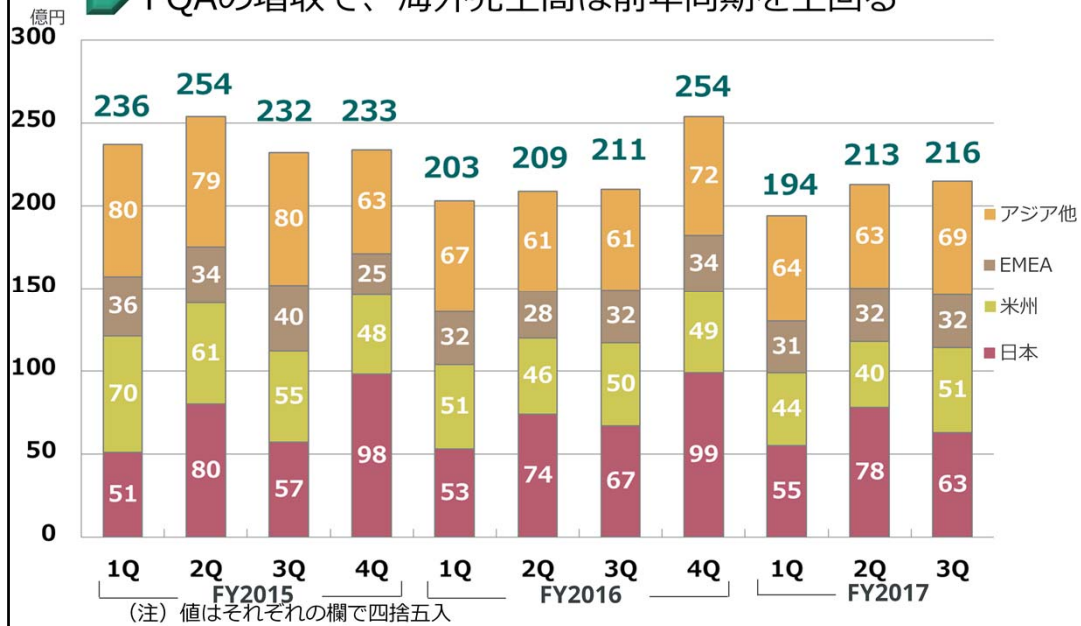
T&M事業の第3四半期受注高は、上期水準並みの134億円でした（前年同期比10%減）。

PQA事業の第3四半期受注高は、前年同期比18%増の56億円で、継続的に成長しています。

なお、受注残高はグループ全体で205億円（前年同期比8%増）、T&M事業では134億円（同3%増）、PQA事業では52億円（同36%増）でした。

II - 7. 地域別売上高推移

➡ PQAの増収で、海外売上高は前年同期を上回る



日本市場は前年同期比6%減収、米州市場は1%、EMEA市場は3%、アジア市場は12%、それぞれ増収となりました。

II - 8. キャッシュフロー

➡ 営業CFマージン率6.7%

内訳

(単位：億円)

FY2017 Q3 (累計)

- ①営業CF： 42億円
- ②投資CF： △22億円
- ③財務CF： △81億円

フリーキャッシュフロー

(①+②)： 20億円

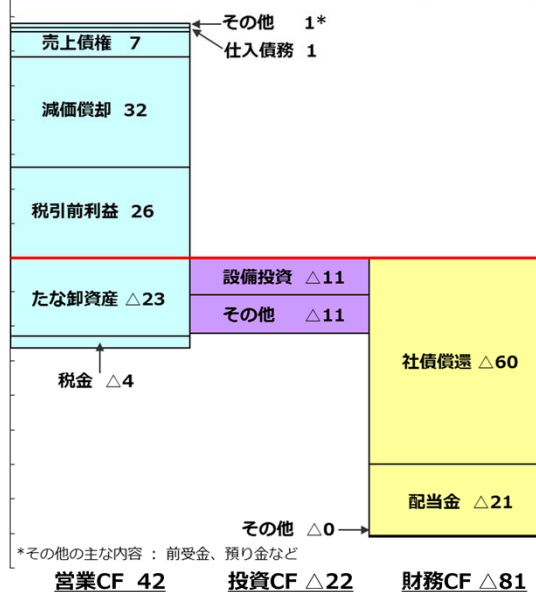
現金同等物期末残高

342億円

有利子負債高

160億円

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入



営業キャッシュフローは、42億円の資金獲得となりました。

投資キャッシュフローは、22億円の支出でした。

その結果、フリー・キャッシュフローは20億円の資金獲得となりました。

財務キャッシュフロー 資金支出81億円の主なものは、普通社債の償還60億円と配当金の支払い21億円(1株配当 6月:7.5円、12月:7.5円)です。

以上の結果、現金同等物期末残高は、期首残高より55億円減少の342億円となりました。

Ⅲ. 2018年3月期 通期業績予想（連結）

➡ 4月27日公表値のとおり

（単位：億円）

| | | 2017/3期 | 2018/3期 | | |
|-----------------|------|---------|---------|------------|---------------|
| | | 前期実績 | 通期予想 | 前期比 増減額 | 前期比 増減率(%) |
| 売上高 | | 876 | 910 | 34 | 4% |
| 営業利益 | | 42 | 44 | 2 | 4% |
| 税引前利益 | | 36 | 42 | 6 | 16% |
| 当期利益 | | 27 | 30 | 3 | 10% |
| T&M | 売上高 | 593 | 610 | 17 | 3% |
| | 営業利益 | 21 | 22 | 1 | 3% |
| PQA | 売上高 | 196 | 215 | 19 | 10% |
| | 営業利益 | 13 | 15 | 2 | 15% |
| その他 (含：内部消去) | 売上高 | 87 | 85 | △ 2 | △ 2% |
| | 営業利益 | 8 | 7 | △ 1 | △ 13% |

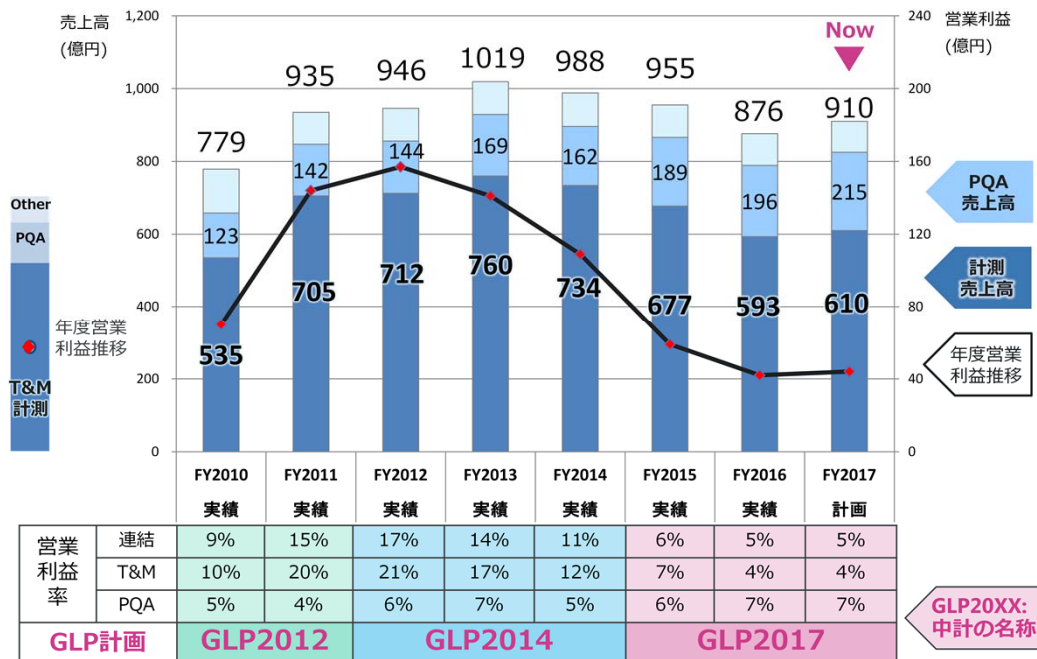
（注）値はそれぞれの欄で四捨五入
 （参考）FY16為替レート : 1米ドル108円、1ユーロ=119円
 FY17期初想定為替レート : 1米ドル110円、1ユーロ=120円
 FY17Q4想定為替レート : 1米ドル110円、1ユーロ=130円

2018年3月期の通期業績の見通しは4月27日の公表値から変更はありません。

IV. 2018年の年頭にあたって -5G/IoTで新たな時代を切り拓く-

(ノート部記載なし)

IV- 1. 業績推移と中期経営計画（3ヶ年、GLP）



Anritsu envision:ensure

15

Financial Results FY2017Q3
Copyright© ANRITSU CORPORATION

2010年からの8年間の業績推移を振り返ります。
最初の3ヶ年計画GLP2012は、1年前倒しで達成することができました。その後は、スマートフォンの生産設備の飽和とコモディティ化そして顧客の合従連衡などによる市場の縮小を背景とした、下向きの慣性力との闘いでした。しかしながら、この3年間の経営構造改革「REBORN Anritsu」による、利益体質の改善施策が成果を上げつつあります。また守り一辺倒ではなく、次の成長ドライバーの獲得に向けた投資にも積極的に取り組んでまいりました。

IV- 2. 新中期経営計画（GLP2020）の基本方針

- ✓ 『利益ある持続的成長』路線を徹底する
- ✓ 2020VISIONの実現に全力で取り組む

Global Market Leader になる

- アンリツらしい価値創造
- ワールドクラスの強靱な利益体質の実現

事業創発で新事業を生み出す

- 新しい分野でアンリツの先進性を発揮

Financial Results FY2017Q3
Copyright © ANRITSU CORPORATION

2020年度を最終年度とする3ヶ年計画GLP2020の基本方針を紹介します。

- (1) 『利益ある持続的成長』路線を徹底する。
- (2) 2020VISIONの実現に全力で取り組む。

これまで、スマートフォン・ビジネスのライフサイクルに影響されて不安定な経営状況が続きました。しかし今後は、スマートフォンのみならず、多様な分野へのモバイルブロードバンド・サービスの拡がりを成長ドライバーとしてまいります。

GLP2020に取り組む各事業のビジョンは下記のとおりです。

計測 「5G/IoT社会を支えるリーディングカンパニーになる」

PQA 「ワールドクラスの品質保証ソリューションパートナーの地位を確立する」

これらのビジョン実現に向けて、グローバル競争を勝ち抜き、経営力を強化してまいります。



現在、気候変動や自然資源の保全、格差と貧困の拡大、健康・福祉・教育レベルの向上など、地球規模で社会的課題が山積しています。これらの社会的課題は持続可能な開発目標SDGs (Sustainable Development Goals) として、2015年に国際連合で「我々の世界を変革するための2030年までのアジェンダ」として全会一致で採択されました。そのアジェンダの解決のためにも、5G、IoT、AI、ロボットなどの最先端技術の進歩による社会イノベーションはますます不可欠なものとなっています。アンリグループは、この国際統一目標の実現に貢献するために、その理念と軌を一にする、アンリツグループの経営理念で掲げる「安全・安心で豊かなグローバル社会」の発展に向けて、自らの本業と強み、アンリツらしさを活かした誠実な企業活動を実践してまいります。

IV- 4. 多様な社会・産業分野の課題を解決していくために、あらゆるステイクホルダーの皆さまとのパートナーシップを築いて、多くの“envision : ensure”の花を咲かせて「利益ある持続的成長」を確固たるものにしていきます。

衆知4.0を集めた全員経営の実践で、利益ある持続的成長へ



Anritsu envision : ensure

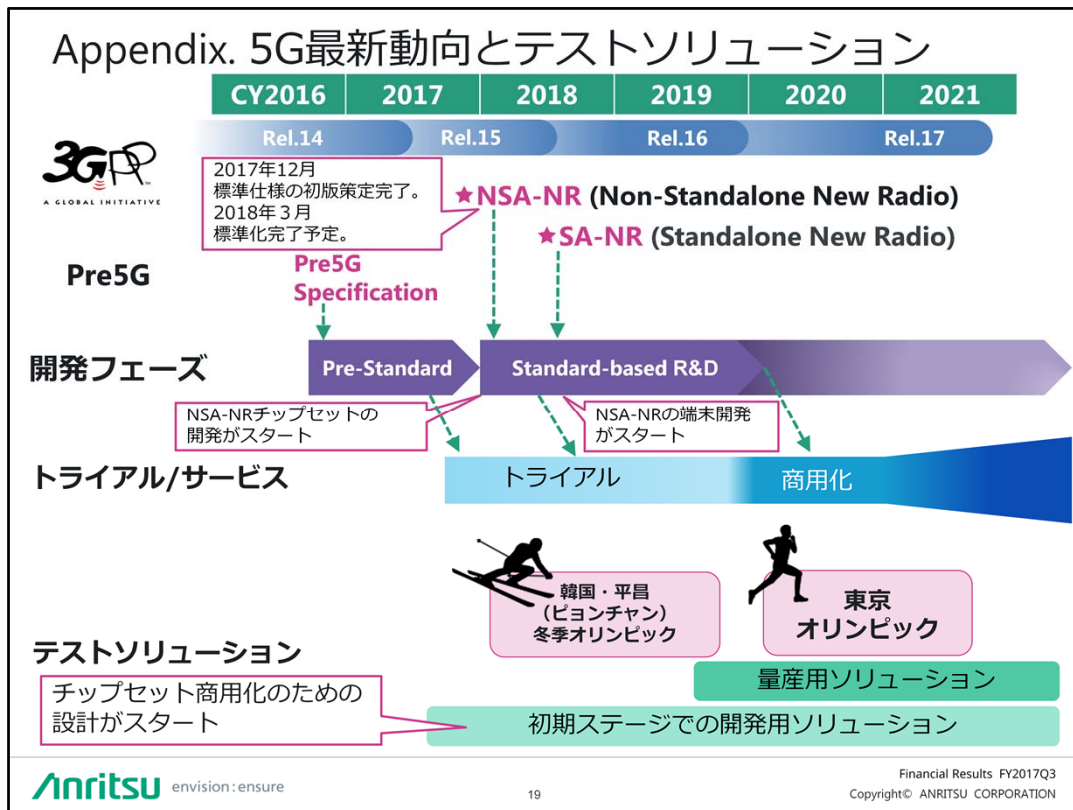
18

Financial Results FY2017Q3
Copyright © ANRITSU CORPORATION

多様な産業分野を事業機会とする社会イノベーションを、全てのステイクホルダーの皆さまとの「協創」で実現してまいります。

アンリツグループは、このオープンな協創的イノベーションを意味する「衆知経営4.0」に積極的に取り組み、多くの“envision : ensure”の花を咲かせてまいります。

2018年も、アンリツグループの企業活動にご支援のほど、お願い申し上げます。




envision:ensure

19

Financial Results FY2017Q3
Copyright© ANRITSU CORPORATION

5Gの最新動向です。

3GPPでは、5G NSA-NRの標準化が順調に進められております。

この5G NSA-NRの標準化の完了により、チップセットベンダーや端末ベンダーはチップセットの開発を本格的にスタートします。

アンリツは、チップセット商用化に必要なテストソリューションをタイムリーに提供していきます。

引続き、端末の商用化、そして各国キャリアの5G商用化に必要なテストソリューションもタイムリーに提供していきます。



(ノート部記載なし)